

Requested Patent: JP61223430A
Title: ELECTRIC STOVE ;
Abstracted Patent: JP61223430 ;
Publication Date: 1986-10-04 ;
Inventor(s): WADA KENICHIRO ;
Applicant(s): MATSUSHITA SEIKO CO LTD ;
Application Number: JP19850064156 19850328 ;
Priority Number(s): ;
IPC Classification: F24C7/04 ;
Equivalents: ;

ABSTRACT:

PURPOSE: To permit to envelope a user who warms himself from his shoulder to his knee by radiant heat belt by swinging a reflecting plate so as to oppose to the location of the user by a method wherein the stove is equipped with a quartz tube heater unit, used vertically, and the reflecting plate, having its focus at the vertical quartz tube, while the reflecting plate is made swingable to left-and-right.

CONSTITUTION: The upper quartz tube heater unit 2, usable in vertical posture, and the parabolic reflecting plate 3, having its focus on the center of the upper quartz tube heater unit 2, are accommodated in the electric stove. An upper case 1 is constituted so as to be swingable with respect to a grille 6. The swinging angle of the case 1 is regulated by a stopper pin 6b, provided on the grille 6, and arched supporting holes 4a, provided on a supporting plate 4. The upper heater unit 2 is opposed to the vicinity of breast of the user and the lower heater unit 8 is swung in right-and-left so as to oppose to the vicinity of the knees of the person, whereby the radiant heat belt 18 may envelope the user from his shoulder to his knees.

⑫ 公開特許公報(A)

昭61-223430

⑤ Int.Cl.⁴
F 24 C 7/04識別記号 庁内整理番号
C-6783-3L

④ 公開 昭和61年(1986)10月4日

審査請求 未請求 発明の数 1 (全3頁)

⑬ 発明の名称 電気ストーブ

⑭ 特 願 昭60-64156

⑮ 出 願 昭60(1985)3月28日

⑯ 発 明 者 和 田 憲 一 郎 大阪市城東区今福西6丁目2番61号 松下精工株式会社内
⑰ 出 願 人 松下精工株式会社 大阪市城東区今福西6丁目2番61号
⑱ 代 理 人 弁理士 中尾 敏男 外1名

明 細 書

1、発明の名称

電気ストーブ

2、特許請求の範囲

縦に使用する石英管ヒータユニットと、これを焦点とする反射板とを備え、前記石英管ヒータユニットは縦方向に2本配設とし、各石英管ヒータユニットは、それぞれ単独に左右への角度揺動可能とした電気ストーブ。

3、発明の詳細な説明

産業上の利用分野

本発明は、縦にして使用可能な石英管ヒータユニットを有する電気ストーブに関するものである。

従来の技術

従来、縦に使用可能な石英管ヒータユニットを有する電気ストーブは、第4図に示すように、生活様式の変化に伴い、椅子に座る生活に適した電気ストーブ101として開発されたものであり、椅子に座って採暖した場合、石英管ヒータユニットが、縦に配設されているため、採暖者は、肩さ

きから膝元まで輻射熱102により包み込むことができ、これが製品の特長となっていた。

発明が解決しようとする問題点

しかし、このような従来の構成では、縦型電気ストーブに対し採暖者が正面に対向して位置する場合は、前記のごとく輻射熱帯により採暖者の肩さきから膝元まで包み込むことが可能であるが、第4図に示すように縦型電気ストーブに対し、採暖者が側面を対向させて採暖する場合は、石英管ヒータユニットを縦に配設しているため、電気ストーブ自身、横方向の輻射熱帯幅が狭く、このため、電気ストーブの中心線を採暖者の胸部付近に位置させると、膝から足先にかけての部分の輻射熱帯より外れ、体の一部が寒く感じるという欠点を有していた。

本発明は上記従来の問題に留意し、電気ストーブに対し、採暖者の対向位置が任意に変動の場合においても、肩さきから膝元まで輻射熱帯により包み込むことができる電気ストーブを提供することを目的とするものである。

問題点を解決するための手段

この問題点を解決するために本発明は、縦に使用する石英管ヒータユニットと、これを焦点とする反射板を備え、前記石英管ヒータユニットは縦方向に2本配設し、各石英管ヒータユニットは、それぞれ単独に左右への角度揺動可能としたものである。

作 用

この構成により、上部石英管ヒータユニットと、下部石英管ヒータユニットの輻射方向は、左右に任意に選択可能となる。

実 施 例

以下、本発明の一実施例を添付図面にもとづいて説明する。

第1図～第3図において、1は前面が開口した縦長筐状の上部ケースで、縦に使用可能な上部石英管ヒータユニット2とこの上部石英管ヒータユニット2の中心を焦点とする放物線形状の反射板3が内蔵されている。この上部ケース1の上端面には、上部ケース1を回動自在に保持する支持部

中央にシャフト13が下方に向けて固定され、シャフト13は、ポールスタンド14の挿入孔14aに挿入・保持され、これにより、下部ケース7は、ポールスタンド14に対し、揺動自在に形成される。なお、上部と同様に、揺動角度規制のため、ポールスタンド14にストッパービン14bが付設される。15は、グリル6天面に設置され、電源・容量の切替を行なう電源スイッチであり、グリル6の背面には、支持ボール16が係止され、他端は、ベーススタンド17に接合される。

上記構成において、電源スイッチ15が入ると、上部石英管ヒータユニット2ならびに下部石英管ヒータユニット8に通電され、それより発する熱が直接もしくは、放物線形状の反射板3、9にて反射され、前方に照射される。この場合、上部ケース1並びに下部ケース7は、それぞれ単独に、左右への角度揺動可能な構成となっており、採暖者が側面を対向させて採暖する場合は、上部ケース1の上部石英管ヒータユニット2を採暖者の胸部付近に対向位置させると共に、下部ケース7の

が設けてあり、以下その詳細を説明する。

4は、上部ケース1の上端に係止された支持板であり、この支持板4中央には、上方に向けてシャフト5が固定される。シャフト5は、グリル6の挿入孔6aが挿通・保持され、これにより、上部ケース1は、グリル6に対し揺動自在に形成される。なお、揺動角度は、グリル6に設けたストッパービン6bにより、支持板4に穿設された弓状の支持孔4aを周接することが規制される。

次に、7は前面が開口した縦長筐状の下部ケースで、縦に使用可能な下部石英管ヒータユニット8と、この下部石英管ヒータユニット8の焦点を中心とする放物線形状の反射板9が内蔵されている。上部ケース1と、下部ケース7の間には、中央グリル10が配設され、上部ケース1下端および、下部ケース7上端に設けられた中央シャフト11が中央グリル10の挿入孔10aに挿入・保持されている。

また、下部ケース7の下端には、上部ケース1と同様に支持板12が係止される。支持板12は、

下部石英管ヒータユニット8を採暖者の膝部付近に右もしくは左に角度揺動させることにより、ヒータからの輻射熱帯18は、斜方向に変位し、採暖者の肩さきから膝元まで包み込むことを可能にする。

なお、採暖者が任意に対向位置を変える場合においても、上部ケース1及び下部ケース7の方向を左右に任意に選択することで、実施例と同様の効果が得られるものである。

本発明は、電気ストーブに於ける実施例を説明したものであるが、ファンモータを内蔵するファン付電気ストーブにおいても同様の効果をもたらすことは言うまでもない。

発明の効果

このように本発明の電気ストーブによれば、上部石英管ヒータユニットおよび下部石英管ヒータユニットが、それぞれ単独で、任意に左右へ角度揺動することにより、採暖者の対向位置に合わせて肩さきから膝元まで輻射熱帯で包み込むことが可能となり、使い勝手上、その効果は大なるもの

である。

4、図面の簡単な説明

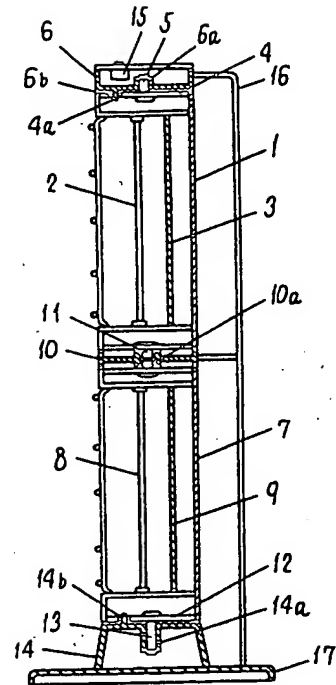
第1図は本発明の一実施例による電気ストーブの断面図、第2図は同輻射分布図、第3図は従来の電気ストーブの輻射分布図、第4図は同電気ストーブの側対位置での輻射分布図である。

2……上部石英管ヒータユニット、3……反射板、8……下部石英管ヒータユニット、9……反射板。

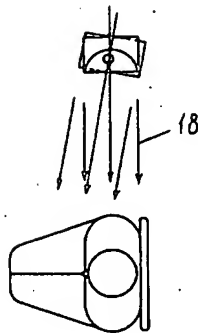
代理人の氏名 弁理士 中 尾 敏 男 ほか1名

第 1 図

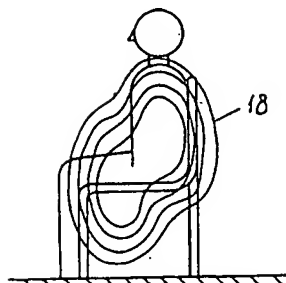
2---上部石英管ヒータユニット
3,9---反射板
8---下部石英管ヒータユニット



第 2 図



第 3 図



第 4 図

